

大津雄一 教授 略歴・業績

〈学歴〉

- 1954年3月 神奈川県生まれ
1977年3月 早稲田大学教育学部国語国語国文学科卒業
1981年3月 早稲田大学大学院文学研究科日本文学専攻前期課程修了
1988年3月 早稲田大学大学院文学研究科日本文学専攻後期課程退学
2003年10月 博士（文学）早稲田大学

〈職歴〉

- 1982年5月 海城学園高等学校非常勤講師（1983年3月まで）
1983年4月 早稲田実業学校非常勤講師（1988年3月まで）
1986年4月 東京都立大学人文学部非常勤講師（1988年3月まで）
1987年4月 関東学院大学短期大学部非常勤講師（1988年3月まで）
1988年4月 早稲田大学高等学院教諭（1998年3月まで）
1989年4月 早稲田大学第二文学部非常勤講師（1992年3月まで）
1990年4月 鶴見大学文学部非常勤講師（1998年3月まで）
1992年4月 早稲田大学第一文学部非常勤講師（1993年3月まで）
1994年4月 早稲田大学第一文学部非常勤講師（1998年3月まで）
1998年4月 早稲田大学教育学部専任講師
2000年4月 早稲田大学教育学部助教授
2005年4月 早稲田大学教育学部教授（のち組織変更により、早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

〈主要業績〉

著書

- 『戦国軍記事典 群雄割拠編』（梶原正昭、矢代和夫ほかと共著） 和泉書院 1997年2月
『北条五代記』（矢代和夫と共著） 勉誠出版 1998年5月
『新編日本古典文学全集 曾我物語』（梶原正昭、野中哲照と共著） 小学館 2000年3月
『軍記と王権のイデオロギー』 翰林書房 2005年3月
『声の力と国語教育』（金井景子と共編著） 学文社 2007年3月
『中世文学の回廊』（小林保治、竹本幹雄ほかと共著） 勉誠出版 2008年3月
『戦国武将逸話集 訳注常山紀談 卷一～七』（田口寛と共著） 勉誠出版 2010年2月

- 『平家物語大事典』（日下力・佐伯真一・櫻井陽子と共編著）東京書籍 2010年11月
- 『続戦国武将逸話集 訳注常山紀談 卷八～十五』（田口寛と共著）勉誠出版 2011年11月
- 『戦国軍記事典 天下統一篇』（梶原正昭、矢代和夫ほかと共著）和泉書院 2011年11月
- 『平家物語 覚一本 全』（平藤幸と共著）武蔵野書院 2013年4月
- 『『平家物語』の再誕 創られた国民文学』NHK出版 2013年7月
- 『続々戦国武将逸話集 訳注常山紀談 卷十六～二十五』（田口寛と共著）勉誠出版 2013年10月
- 『平家物語 覚一本 全 改訂版』（平藤幸と共著）武蔵野書院 2014年9月
- 『別冊戦国武将逸話集 訳注常山紀談 拾遺一～四・雨夜燈』（田口寛と共著）勉誠出版 2018年5月
- 『挑発する軍記』勉誠出版 2020年10月

論文

- 慈光寺本『承久記』の特質—その構想を中心として—「古典遺産」27号 1977年3月
- 前田家本『承久記』の「源氏志向」とその意味「古典遺産」31号 1980年12月
- 慈光寺本『承久記』の文学性「軍記と語り物」17号 1981年3月
- 前田家本『承久記』の後鳥羽院と義時—その文学性の評価のために—「国文学研究」75集 1981年10月
- 真名本『曾我物語』の狩場をめぐる「日本文学」30巻11号 1981年11月
- 真名本『曾我物語』の表現構造「古典遺産」34号 1983年8月
- 『承久記』の変容「古典遺産」36号 1985年7月
- 体制的にかつ反体制的に—真字本『曾我物語』のストラテジー「日本文学」36巻7号 1987年7月
- 真字本『曾我物語』のストラテジー 國東文磨編『中世説話とその周辺』明治書院 1987年12月
- 「誰カ昔ノ王孫ナラス」—慈光寺本『承久記』考—「早稲田大学高等学院研究年誌」33号 1989年3月
- 義仲考—王権の〈物語〉とその亀裂—「日本文学」39巻7号 1990年7月
- 為朝・崇徳院考—王権の〈物語〉とその亀裂—「軍記と語り物」27号 1991年3月
- 類本『平治物語』の可能性—構築と解体の自己運動—「軍記と語り物」28号 1992年3月
- 『将門記』の〈先駆性〉「日本文学」42巻5号 1993年5月
- 『陸奥話記』あるいは〈悲劇の英雄〉について「古典遺産」44号 1994年3月
- 『太平記』という反〈物語〉・反〈歴史〉「日本文学」44巻7号 1995年7月
- 軍記物語と王権の〈物語〉—イデオロギー批評のために— 山下宏明編『平家物語研究と批評』有精堂 1996年6月
- 『太平記』あるいは〈歴史〉の責務について「国文学研究」122集 1997年6月
- 『曾我物語』の成立基盤 梶原正昭編『曾我・義経記の世界』軍記文学研究叢書 汲古書院 1997年12月

- 怨霊は恐ろしき事なれば—怨霊の機能と軍記物語の始発— 梶原正昭編『軍記文学の系譜と展望』
汲古書院 1998年3月
- 後白河法皇の涙—建礼門院の物語をめぐって— 「日本文学」47巻5号 1998年5月
- 『承久記』の成立と方法—〈終り〉の危機と〈歴史〉の危機— 長谷川端・梶原正昭編『承久記・
後期軍記の世界』軍記文学研究叢書 汲古書院 1999年7月
- 『陸奥話記』の位相—危機と快樂の不在— 栃木孝惟編『軍記文学の始発—初期軍記』軍記文学研
究叢書 汲古書院 2000年2月
- 『明德記』と『応永記』の類似性—神聖王権の不在をめぐって— 「古典遺産」50号 2000年8月
- 戦国軍記研究の困難さ 「日本文学」49巻11号 2000年11月
- 軍記と九世紀 「日本文学」49巻12号 2000年12月
- 曾我物語の構造—〈孝〉と〈忠〉 村上美登志編『曾我物語の作品宇宙』解釈と鑑賞別冊 2003年
1月
- 義仲の愛そして義仲への愛 『〈新しい作品論〉へ、〈新しい教材論〉へ』（古典編） 右文書院
2003年1月
- 教材としての「東下り」の可能性 「早稲田大学国語教育」23号 2003年3月
- 〈終わり〉の後の歴史叙述—『応仁記』の虚無— 「学術研究」52号 2004年2月
- 権力と『曾我物語』 「軍記と語り物」40号 2004年3月
- 知盛と教経 「観世」72巻11号 2005年11月
- 『平家物語』とロマン主義 「軍記と語り物」43号 2007年3月
- 何のために？ —『平家物語』群読をめぐって 大津雄一・金井景子編『声の力と国語教育』学文社
2007年3月
- 『太平記』—異形の物語 小林保治・竹本幹雄ほか編『中世文学の回廊』 勉誠社 2008年3月
- 軍記の転換点としての『太平記』 市沢哲編『太平記を読む』（歴史と古典） 吉川弘文館 2008年
11月
- 戦時下の『平家物語』 「国語と国文学」85巻11号 2008年11月
- 八王子城山実録（翻刻、田口寛と共著）上 「古典遺産」58号 2008年12月
- 八王子城山実録（翻刻、田口寛と共著）下 「古典遺産」59号 2009年12月
- 木曾義仲の再誕—野蛮と純朴— 「武蔵野文学」58号 2010年12月
- 『太平記』の「知」 佐伯真一編『中世の歴史叙述と軍記物語』 竹林舎 2011年4月
- 『平家物語』の「愛の物語」 「日本文学」61巻1号 2012年1月
- 一の谷の公達 「観世」79巻8号 2012年8月
- 軍記と暴力 「文学」隔月刊16巻2号 2015年3月
- 残された女の物語—小宰相と曾我兄弟の母— 鈴木彰・三澤裕子編『いくさと物語の中世』 汲古
書院 2015年8月

- 惚れさせない古典教育—教材としての『平家物語』「木曾最期」「能登殿最期」の可能性— 「日本文学」65 卷1号 2016年1月
- 時勢と英雄 「軍記と語り物」52号 2016年3月
- 『平家物語』という祝祭 「古典遺産」66号 2016年3月
- 軍記文学史は必要か 松田浩ほか編『古典文学の常識を疑う』 勉誠出版 2017年5月
- 異端の軍記物語—慈光寺本『承久記』考— 「悠久」151号 2017年10月
- 端麗なる戦場—軍記物語のいくさの表象とその来由についての試論 「国際日本文学研究集会会議録」42号 2019年3月
- 慈光寺本『承久記』の世界観—嘆きの不在— 松尾葦江編『武者の世が始まる』軍記物語講座 花鳥社 2020年1月
- いくさと少年たち 「国文学研究」190集 2020年3月
- 〈紙の中〉の暴力 「説話文学研究」57号 2022年9月
- 『平家物語』の権力 高木信編『21世紀日本文学ガイドブック 平家物語』 ひつじ書房 2023年2月